# 饗庭伸研究室（都市計画とまちづくり）

**9号館161号室 aib@tmu.ac.jp**

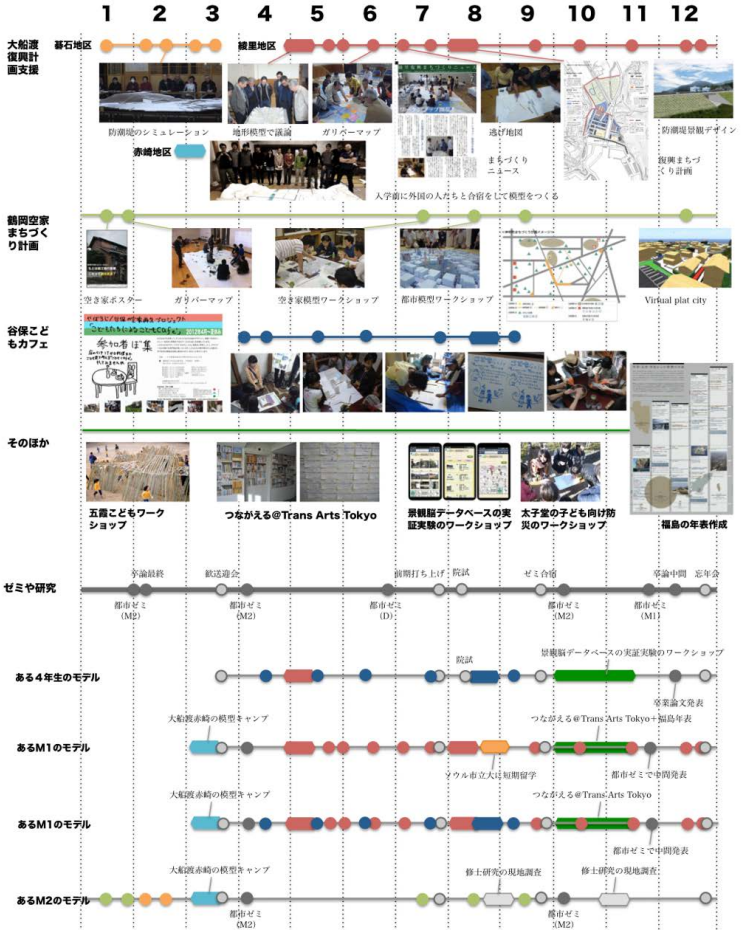
まちづくりや都市計画は、簡潔に述べると、「他人の土地や建物に、公共性のある提案をし、実現する活動」です。都市の課題を的確に読み取り、リアリティのある提案をつくる能力と、それを市民に伝えて実現化していく能力が問われることになります。

よって、研究のテーマは、「都市の課題を的確に読み取る＝市街地の実態研究」と、「それを他者に伝えて実現化していくために必要な制度や手法の研究」に大別されます。

前者は、都市計画においては、各種の地図や現場での調査をベースに「目に見えるフィジカルな空間」を読み取り、なぜその空間が形成されたのかを考える研究がその基礎にあります。それらに加えて、ここ数年は温熱環境や耐震性能など、目に見えない性能から、どう都市を読み取るのか、そしてそれらを市民が正確に理解できるようにどう可視化するか、という研究にシフトしつつあります。古地図をにらんだり、都市の実測調査をしたり、GISで分析したり、と研究の素材は広い意味での「地図」です。

後者は、提案を市民に伝える方法・技術の開発や評価、提案を実現化する制度の実態研究、提案を受け止める市民社会の組織やコミュニティの研究に大別されます。技術を考えて誰かに試したり、誰かが動かしている制度を研究したり、と研究の素材は広い意味での「人」です。

研究室に入ると、卒業論文や修士論文に取り組むことになります。研究の具体的なテーマは、上記のような事を大前提に、それぞれが考え、持ち寄り、アイデアを交換しながら進める事になります。独自のテーマを持ち込んで来ても構いませんし、饗庭が行っている研究に参加する事も可能です。




大学院では、学域での講義や演習、自身の修士研究、研究室のプロジェクトに取り組むことになります。

学域での講義や演習は定められた単位数を取得する必要があり、そこそこハードな取り組みが求められます。

修士研究については基本的には自身のテーマを研究室のゼミに持ち寄り、研究室メンバーの意見交換や饗庭からの指導で２年間かけてそれを完成させていきます。饗庭のテーマを分担して研究するわけではなく、それぞれの問題関心を大事にし、それを皆で磨いていきます。

研究室のプロジェクトについては、継続的に取り組むまちづくりやプランニングの現場、単発的なワークショップ、雑誌等の記事の執筆、展覧会での展示等があります。ずっと続いているものから、突発的にもたらされるものもありますし、２年間かけて取り組むものから数ヶ月で終わるものもあります。どのようなプロジェクトであっても、それをスタートする際に研究室の学生を募り、プロジェクト毎にチームを組成して取り組みます。どのプロジェクトに参加するかは学生側の選択で、沢山のプロジェクトを掛け持ちして取り組む学生もいれば、プロジェクトの数を絞り、修士研究等に力を注ぐ学生もいます。

学域での講義や演習、自身の卒業・修士研究、研究室のプロジェクトそれぞれについて、自身にどういう経験が必要かを見極めながら選択して組み合わせることになりますので、目的意識をはっきり持って大学院に進学することを考えて下さい。

# 研究とプロジェクト

**研究室で2024年度に取り組んでいるプロジェクト**

左上から時計回りに、多摩ニュータウンの公共施設再生ワークショップ、人口減少時代の都市計画のあり方（八王子ほか）、MR技術を使ったワークショップ手法の開発（八王子北野地区）、中国のまちづくり（上海ほか）。

**1　まちづくりのコミュニケーションをどう豊かにできるかを考える**

様々なワークショップの手法を開発し、各地の市民参加の現場で実際に使っています。近年はボードゲームの手法を取り入れているほか、XR技術を取り入れたコミュニケーション技術の開発に取り組んでいます。

**2　縮小都市のプランニングを進める**

空き家の活用などに取り組みつつ、それを実際の都市計画へと組み上げていくことの実践と理論化を進めています。土地利用計画、立地適正化計画、土地区画整理事業、市街地再開発事業、といった都市計画です。プロジェクトでは多摩ニュータウンの公共施設の再編に取り組んでいます。

**3　ちゃんとした災害復興とは何かを考える**

岩手県の大船渡市綾里地区において、計画策定の支援からその後の記録作りを中心とした長期のまちづくりについて、徹底的に現場に入り続け、そこで様々な研究と実践を行ってきました。

**4　東京の都市計画を考える**

東京都庁の都市計画の調査を行いつつ、プロジェクトとしては、オリンピック選手村が建設されつつある中央区晴海地区において、地域の人たちとともにエリアマネジメントの仕掛けづくりに取り組んでいます。

**5　アジアのまちづくり・都市計画を考える**

韓国、台湾、中国のまちづくりや都市計画の現場の動きを調査しつつ、中国や台湾ではデザインワークショップを行っています。

# 授業や演習

参加型デザイン実習

参加型ワークショップ特論

「参加型デザイン実習」は、都市空間を少し豊かにする空間を設計して、実際に作ってしまう実習です。
「参加型ワークショップ特論」は、市民参加の現場で欠かせない、ワークショップ手法を学び、実際にワークショップで使うゲームを設計する演習です。

# 研究室希望にあたって

大学院生は原則一学年4人、学部生は一学年4人の定員で募集をします。現在はM1が3人、M2が2人、Dが5人、RAが2人です。
研究室を希望するにあたっては、必ずゼミの見学をし、自身の希望する研究計画のメモをつくって饗庭と面談するようにしてください。研究室は少人数の空間ですので、みなさんがやりたいことと研究室の環境が合うかどうか、みなさんと饗庭が合うかどうかがとても大事なことになります。
研究計画のメモは、研究の背景や問題意識、目的（何を明らかにしたいのか）、調査の方法（具体的なデータの集め方）、対象地、仮説（どういったことがわかりそうか）を書くようにしてください。複数のテーマを持ち込んでもらってもよいです。

**研究室説明会動画・ゼミ見学日程については以下（QRコード）にアップします。**
**https://shinaiba.fpark.tmu.ac.jp/frame2.htm**
**ゼミ見学、個人面談などをご希望の方は、説明会動画をご覧いただいた上で、**
**aib@tmu.ac.jpまでご連絡ください。**
**なお、研究室からの内部進学以外は筆記試験免除はありません。**
**また、研究生の受け入れは行なっておりません。**